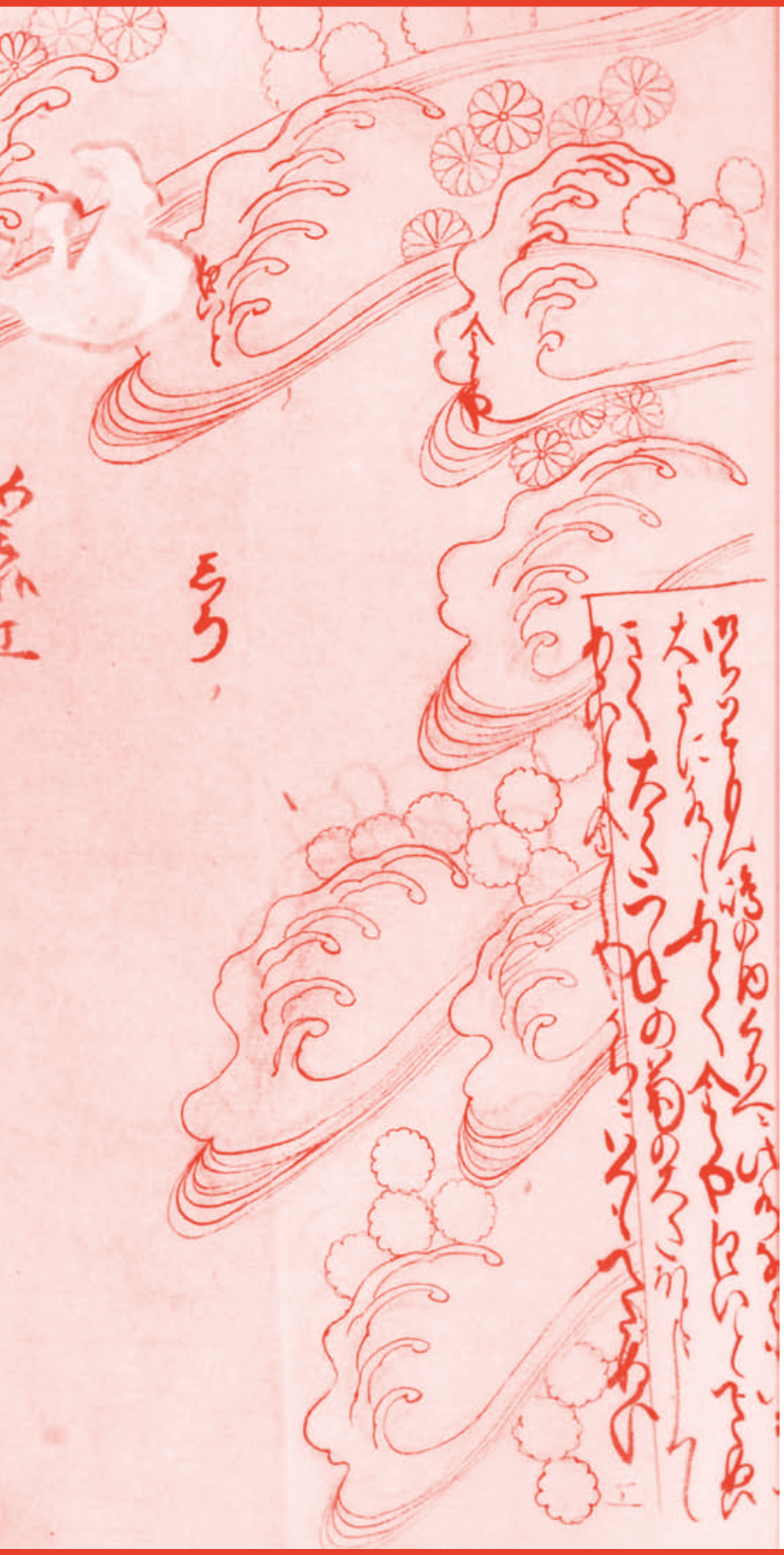
2011年9月刊行予定



雁金屋御画帳の研究

―小西家伝来尾形光琳関係資料にみる小袖文様―

塚本 瑞代
（群馬県立女子大学名誉教授）著

序　仲町啓子
図　版
読み下し・解読・しきうつし
御画帳・文字の読み下し
背面、上前、下前の復元図
腋線連結図・上前下前の打合せ図
肩線連結図
身頃連結図
肩線・身頃連結図一覧表
文様の漸次移行的整理図
雁金屋御画帳の復元とその考察――万治四年・寛文三年――　塚本瑞代
年次別復元一覧表
A本B本C本の成立過程一覧表
寛文文様にみる美意識　塚本瑞代
あとがき

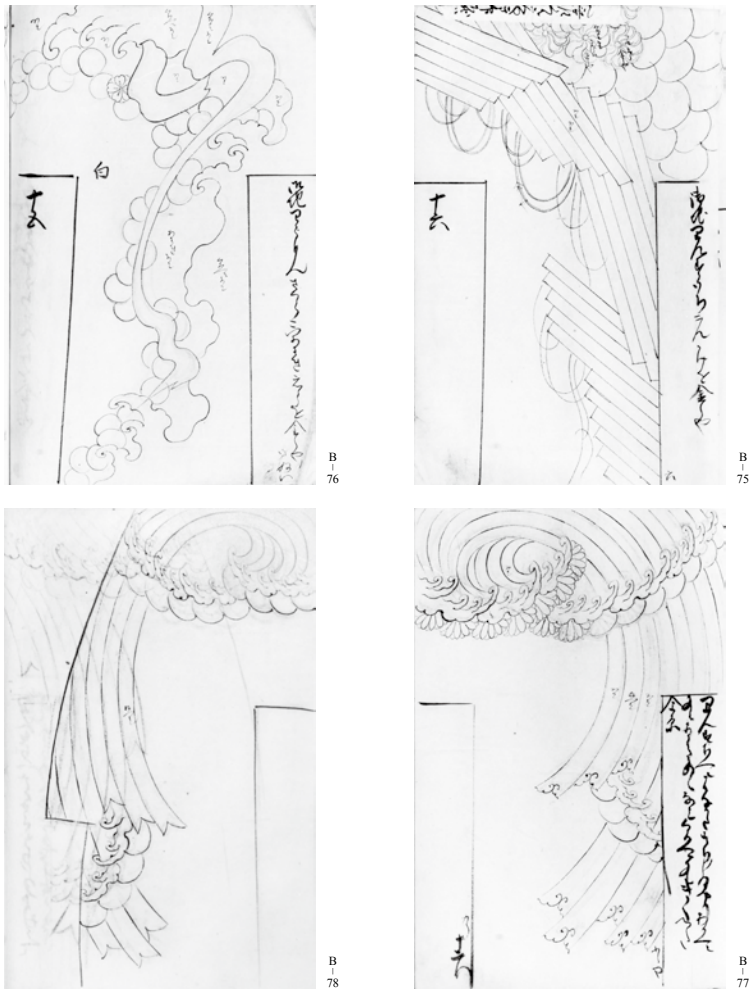
刊行にあたって

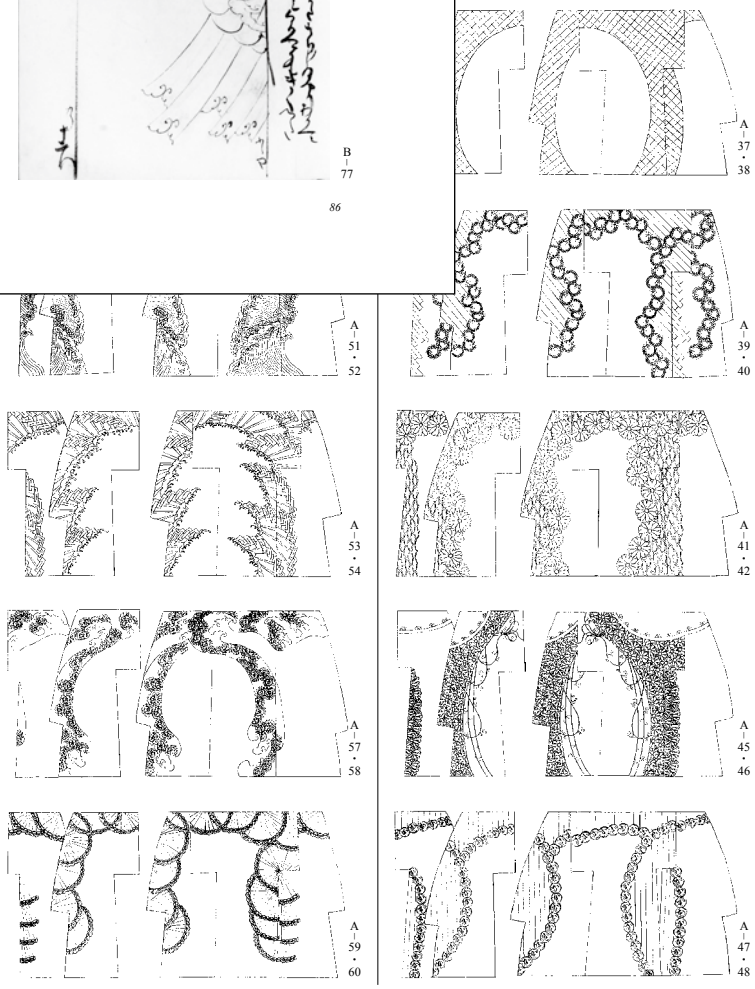
仲町啓子

雁金屋の『御画帳』は、かつて山根有三編『小西家旧蔵光琳関係資料とその研究　資料』（中央公論美術出版、一九六二年）において、はじめて全頁の写真が掲載され、紹介されたものである。その後、山根氏は「昭和五七年度科学研究費補助金　一般研究（B）（研究課題：雁金屋雛形帖の染織史的絵画史的研究――小西家伝来光琳関係資料を中心に――）」において、再度、調査研究に着手された。それは染織史・絵画史両面から本資料の史的意義を深く認識されてのことであった。『御画帳』は寛文六年（一六六六）刊の『新撰御ひいなかた』を遡る手描きの衣裳図案の資料であるだけでなく、「雁金屋」という具体的な呉服商の記録であること、また各図に添えられた書き入れによって、注文主や技法、彩色などがかなり具体的に判明することにおいても貴重であった。また何より江戸期を代表する絵師である尾形光琳の生家・雁金屋の記録であり、光琳幼少期のいわば原体験を探る上にも重要な視覚的イメージ資料であった。

右記の研究に研究分担者のひとりとして参加されたのが、塚本瑞代氏である。その研究は、塚本氏の「桃山から寛文の小袖文様――『雁金屋雛形帖』を中心として――」の論文と、仲町の復元試案及び「寛文三年正月から十月までの仕上がり分」の写真図版と書き入れの公刊をもっていちおうの中間報告としたが、問題は未だ山積していた。塚本氏は、その後も継続して詳細な資料吟味をもとに研究を積み重ねられてきた。ここに氏の研究成果とともに、すべてのページが、初めて多くの研究者が利用可能な鮮明な写真図版として提供されるに至ったことは、画期的なことであり、その学術的な意義は計り知れない。これはひとえに塚本氏の情熱と努力の賜である。（本書『序』より）

組見本（50%縮小）





本書の特色

■重要文化財小西家伝来光琳関係資料中の「御画帳」（衣裳図案帳）に描かれたの六〇〇点の図版すべてを掲載。

■省略・虫喰部分を補って全点を描き起こし、伝えられた文様を復元。さらに腋線・肩線・身頃でそれぞれ連結した図を併載する。

■文様の類似性を軸に並び替えを行った「漸次移行的整理図」など著者三十年以上に亘る研究成果。

尾形光琳が遺した小西家伝来資料の中にある小袖の雛形が描かれた「御画帳」は、江戸時代の小袖を研究する上で必須のものである。いまだその全容が公刊されていないその全図を掲載、かつ「しきうつし」によって文様を描き起こし、さらに図内の文字を解読することにより、当時の小袖の在りようにとどまらない、日本のデザインや美意識を端的に語る貴重な資料の全容を明らかにする。

■本書をお薦めする方々

服飾デザイナー、デザイン研究者・研究室／家政学部被服学、服飾史、工芸史研究者・研究室／国史学、日本史学、文化学研究者・研究室／美学美術史研究者・研究室／美術館、博物館、大学、公共図書館

■造本・体裁

B4判変形函入　モノクロ口絵一七六頁　本文二六〇頁

■定価　三四,六五〇円（本体三三,〇〇〇円＋税）

ISBN978-4-8055-0664-6

著者略歴

塚本　瑞代（つかもと・みずよ）

群馬県立女子大学名誉教授。著書に『季節の美学』新曜社、2006年。『衣装の美学』行路社、1994年。『服飾文化論』放送大学振興会、1994年（共著）。『服飾表現の位相』昭和堂、1992年（共著）。

小西家伝来尾形光琳関係資料

尾形光琳の子寿市郎の養子先小西家に伝来した、画稿類と文書類のことである。光琳の写生帖を始めとして、画稿・粉本・工芸図案下絵・印章など約400点と、光琳の父祖の職業である呉服商関係のものや、光琳を主として、父・兄弟・子孫の経済・家庭・交友・趣味にかんする文書・記録など約185点が含まれている。現在大半が大阪市立美術館と京都国立博物館に所蔵され、重要文化財に指定されている。

関連書籍

上代裂集成

澤田むつ代 著

A4判上製函入　2分冊（本文篇464頁　図版篇236頁）

定価66,150円（本体63,000円＋税）

永年、法隆寺裂の整理・修復に従事してきた著者が、法隆寺裂と正倉院裂を比較研究することにより、上代裂の構造・組成等を明らかにすると共に、古墳時代の遺跡からの出土裂まで調査・研究の手を広げ、歴史的に通観し、新たな上代裂染織史を初めて学術的に構築する。　ISBN978-4-8055-0395-7

光琳蒔絵の研究

内田篤呉（MOA美術館副館長）著

A5判上製函入　カラー口絵16頁　本文380頁

定価13,650円（本体13,000円＋税）

琳派の大成者である本阿弥光悦と尾形光琳によって創始された光悦光琳蒔絵を対象とし、近年の国文学研究の成果などを踏まえて従来の研究方法では難しかったその特質を解明、日本美術史上における位置づけを明確にして漆工史学の基礎的な研究方法を構築する。（2011年冬刊行予定）　ISBN978-4-8055-0666-0

中央公論美術出版
http://www.chukobi.co.jp
〒104-0031　東京都中央区京橋2-8-7
電話　03-3561-5993　FAX　03-3561-5834

お取扱いは